

## 再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道 49号 水原 <sup>すいばら</sup> バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：新潟県阿賀野市寺社 至：新潟県阿賀野市下黒瀬	延長	8.1km		
事業概要					
国道49号水原バイパスは、「交通渋滞の緩和」、「交通事故の低減」、「広域ネットワークの機能強化」などを目的とした延長8.1kmの4車線のバイパス事業である。					
H10年度都市計画決定		H12年度事業化		H15年度用地着手	
H17年度工事着手					
全体事業費	約 350億円	事業進捗率	38%	供用済延長	0.0km
計画交通量	19,700 ～ 25,100 台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益	
	(事業全体) 1.6	(残事業)/(事業全体) 213/ 333億円		(残事業)/(事業全体) 533/ 533億円	
	(残事業) 2.5	事業費：169/ 288億円 維持管理費：45/ 45億円		走行時間短縮便益：407/407億円 走行経費減少便益：84/ 84億円 交通事故減少便益：41/ 41億円	
基準年：平成24年度					
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量		B/C= 1.6～ 1.7(交通量±10%)		(残事業) 交通量	
事業費		B/C= 1.5～ 1.7(事業費±10%)		事業費	
事業期間		B/C= 1.4～ 1.8(事業期間±20%)		事業期間	
		B/C= 2.5～ 2.7(交通量±10%)		B/C= 2.3～ 2.7(事業費±10%)	
				B/C= 2.3～ 2.7(事業期間±20%)	
事業の効果等					
①日常活動圏へのアクセス向上					
・阿賀野市に隣接する新潟市との通勤・買い物圏域が拡大するとともに、通勤・買い物の利便性向上が期待される。					
②生活環境の改善					
・バイパスへ交通が転換することで、現道の自転車利用者の安全性向上や騒音低下等の沿道環境の改善が期待される。					
③防災機能の強化					
・阿賀野川氾濫時の緊急輸送道路としての機能向上や、並行する磐越自動車道通行止め時の代替ルートとしての役割が期待される。					
④救急救命活動の支援					
・第三次医療施設である新潟市民病院への30分圏域が拡大し、救急救命活動への支援が期待される。					
⑤阿賀野市の観光・交流支援					
・事業区間周辺に点在する観光施設へのアクセス性が向上し、観光・交流の活性化が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見					
地域から頂いた主な意見等					
阿賀野市など2市1町の首長で構成される新潟県国道49号整備促進期成同盟会等より、整備の要望を受けている。					
知事からの意見					
地域の安全確保等のため、事業を継続する必要がある。					
事業評価監視委員会の意見					
審議の結果、再評価及び対策方針（原案）の「事業継続」は妥当である。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
平成15年度 国道49号横雲バイパス全線暫定2車線開通。					
平成16年度 市町村合併により旧安田町、旧水原町、旧京ヶ瀬村、旧笹神村が阿賀野市となる。					
平成18年度 国道49号安田バイパス全線暫定2車線開通。					

事業の進捗状況、残事業の内容等

事業の進捗状況（平成27年度末(予定)）：事業進捗率38%、用地進捗率99%  
残事業の内容：全線の工事（埋蔵文化財調査、改良工事、橋梁工事、舗装工事）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

早期のバイパスの暫定2車線開通に向けて、埋蔵文化財調査・改良工事・橋梁工事を推進する。  
バイパスの暫定2車線開通後の4車線化については、交通状況を勘案しつつ、関係機関と調整を図りながら行う。

施設の構造や工法の変更等

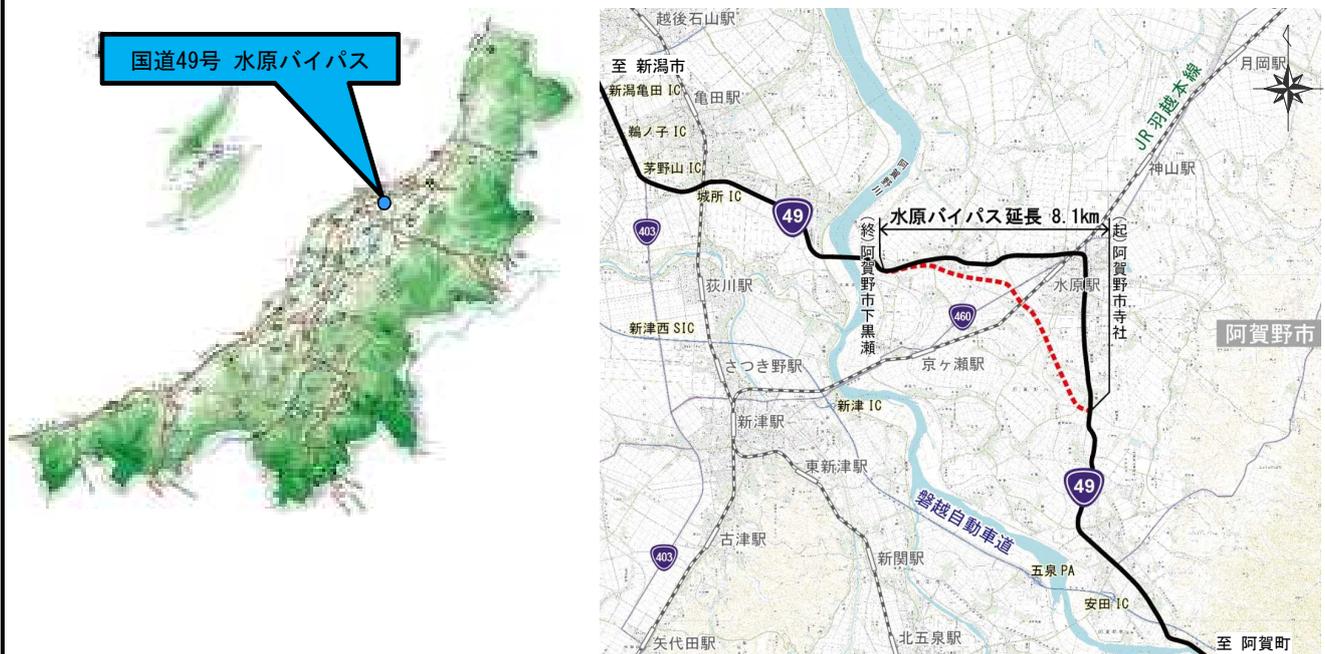
施行にあたっては、新技術の積極的な活用、建設発生土の有効活用等により、コスト縮減に努める。

対応方針：事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。